

## ごあいさつ

街並にいろんな花が咲き、木々にみどりが戻った春。昨年、病院の通用口に巣作りをしたツバメのカップルがまた無事に戻って4羽のヒナを生みました。今年はめでたくツバメの出産予定日が的中。ツバメのパパ・ママは必死で子育て中です。こんな光景をスタッフ一同、改修工事のスタッフまで微笑んで見守っています。恒例のコンサートは第11回を迎えました。今回の演奏者はお2人供、妊娠中です。「胎内記憶」という言葉ご存じでしょうか？もし赤ちゃん自身にも、おなかにいた頃や生まれたときの記憶があるとしたらどうでしょうか？胎教の本来の目的は、赤ちゃんとの絆を深めて、子育ての基盤を作ること。おなかの中から子育ては始まっています。素敵な音楽はきっと赤ちゃんを優しい気持ちにします。人間は必ずお母さんのおなかの中で育ちます。男性も遠い昔は赤ちゃんだったわけで、もしお母さんだったら、赤ちゃんだったら…とぜひ考えてみませんか？大切にされた記憶、愛しいと思った記憶、お母さんの語りかけ、ラブソング、そんな優しい記憶を覚えていたとしたら？先進国で一番長生きで子どもの数が少ないこの国で、大切な財産は赤ちゃんかもしれません。赤ちゃんには強いパワーがあります。会った人みんなを笑わせる、強いスーパーマン。赤ちゃんマンの誕生に乾杯！

URL <http://www.m-ship.net/ilc> 2003年5月24日 NPO MOTHER SHIP 代表 井尾 裕子

1980年代の終わり、米国でエイズが社会問題となってきたころ、ニューヨークのアーティスト達が、エイズで命を落とした仲間達に対する追悼の気持ちとエイズに苦しむ人々への理解と支援の意思を示すためにレッドリボンをシンボルにした運動を始めました。この運動は、その考えに共感した人々によって国境を越えて広がっています。レッドリボンはエイズ患者・HIV感染者の方々に対する理解と支援のシンボルです。このリボンをつけることでエイズに対する偏見や差別をなくするという気持ちを表しています。



アメリカでは、8人に1人が乳がんにかかるため、ピンクリボン運動と呼ばれる啓蒙活動が展開されています。アメリカの女性たちの乳がん啓蒙キャンペーンから始まったこの活動は、胸にピンクのリボンをつけることにより定期的検診と自己管理の大切さを理解し、周囲の人々に乳がんの認識を促すことを目的としています。日本でも40歳以上の女性の死亡率のトップは乳がんの時代になりました。大切な家族、友人のためにも乳がんの早期発見から早期診断をアピールしていただけるようにとの願いをこめています。



## 第11回井上レディスクリニック ♪Wリボン♪ チャリティイベント

### 歌とピアノのコンサート



2003年5月24日（土）午後3時30分～5時

NPO MOTHER SHIP



INOUE LADIES CLINIC





## プログラム

- 歌 イタリア歌曲集より
- ベルゴレージ 『Se tu m'ami もし貴方が私を愛してくれて』
- パイジェッロ 『Nel cor piu non mi sento もはや私の心には感じない』
- スカララッティ 『Sento nel core 私は心に感じる』
- ヘンデル 『Ombra mai fu 樹木の蔭で』
- ピアノ リスト 『愛の夢』
- 歌 グルック 『O del mio dolce ardor ああ私の優しい熱情が』
- ヘンデル 『Lascia ch'io pianga 私を泣かせてください』
- ジョルダナーニ 『Caro mio ben いとしい女よ』
- 休憩 — コーヒーブレイク —
- 歌 シューベルト 『Ave Maria アヴェ マリア』
- ワーグ 『大きな古時計』
- 中田章 『早春賦』
- 成田為三 『浜辺の歌』
- 岡野貞一 『もみじ』
- 平井康三郎 『ふるさとの』
- ピアノ フォーレ 『ノクターン第2番』
- ベルディ 歌劇「運命の力」より 『Pace, pace, mio Dio 神よ平和を与えたまえ』
- 皆様と一緒に 「千と千尋の神隠し」より 『いつも何度でも』

## いつも何度でも

1

呼んでいる 胸のどこか奥で  
いつも心躍る 夢を見たい

悲しみは 数えきれないけれど  
その向こうできっと あなたに会える

繰り返すあやまちの そのたびひとは  
ただ青い空の 青さを知る  
果てしなく 道は続いて見えるけれど  
この両手は 光を抱ける

さよならのときの 静かな胸  
ゼロになるからだが 耳をすませる

生きている不思議 死んでいく不思議  
花も風も街も みんなおなじ

2

呼んでいる 胸のどこか奥で  
いつも何度でも 夢を描こう

悲しみの数を 言い尽くすより  
同じくちびるで そっとうたおう

閉じていく思い出の そのなかにいつも  
忘れたくない ささやきを聞く  
こなごなに砕かれた 鏡の上にも  
新しい景色が 映される

はじまりの朝の 静かな窓  
ゼロになるからだ 充たされてゆけ

海の彼方には もう探さない  
輝くものは いつもここに  
わたしのなかに 見つけられたから



歌 篠崎紫 (しのぎきゆかり)

97年東京音楽大学音楽科声楽専攻卒業。  
声楽を故嵯峨おさむ氏、ピアノを佐藤由紀子氏に師事。長野県新人演奏会、松本市制90周年記念新人演奏会に出演。その後、立川にて声楽、ピアノ、箏等の指導にあたっている。当院で女の子を出産したお母さんです。



ピアノ 横田由美香 (よこたゆみか)

97年東京音楽大学器楽科ピアノ専攻卒業。  
ピアノを大谷真美子氏、チェンバロを山田康弘氏に師事。女性合唱団・枇杷の会ピアニスト。昨年よりソロ演奏活動を本格的に始動。2回のリサイタルにて好評を博した。また、音楽教室講師として後進の指導にあたっている。